

比率による安全性分析（流動性分析、その他）について、2社の具体的な数値例を用い比較しながら説明しなさい。

2003年度及び2004年度の岩崎電気株式会社（以下I社）と同業のウシオ電機株式会社（以下U社）のそれぞれの連結貸借対照表と連結損益計算書を参考に比較しながら安全性分析をおこないました。

1.流動性分析 (1)流動比率と当座比率

2003年3月

$$\text{流動比率I社} = \frac{48946}{33623} \times 100 = 145.57\% \quad \text{U社} = \frac{79247}{29715} \times 100 = 266.69\%$$

$$\text{当座比率I社} = \frac{48946 - 10183 - 2009}{33623} \times 100 = 109.31\%$$

$$\text{U社} = \frac{79247 - 15320 - 7871}{29715} \times 100 = 188.65\%$$

2004年3月

$$\text{流動比率I社} = \frac{49111}{26813} \times 100 = 183.16\% \quad \text{U社} = \frac{84846}{36538} \times 100 = 232.21\%$$

$$\text{当座比率I社} = \frac{49111 - 10087 - 2030}{26813} \times 100 = 137.97\%$$

$$\text{U社} = \frac{84846 - 16651 - 7438}{36538} \times 100 = 166.28\%$$

コメント：I社は流動比率が120%以上あり、当座比率も200%以上あり短期的支払能力は高い。U社は流動比率が200%以上あり、当座比率も下がっているが150%以上あり、短期的支払能力に問題はない。

(2)現金預金比率

2003年3月

$$\text{I社} = \frac{12711}{33623} \times 100 = 37.80\% \quad \text{U社} = \frac{17900}{29715} \times 100 = 60.24\%$$

2004年3月

$$\text{I社} = \frac{12987}{26813} \times 100 = 48.44\% \quad \text{U社} = \frac{15491}{36538} \times 100 = 42.40\%$$

コメント：I社は増加し、U社は減少しているが、両社とも20%以上あり即時支払能力は十分にある。資金が過剰気味であるとも言える。

(3)棚卸資産対売上債権比率

$$2003/3:\text{I社} = \frac{10183}{24152} \times 100 = 42.16\% \quad \text{U社} = \frac{15320}{27464} \times 100 = 55.78\%$$

$$2004/3:\text{I社} = \frac{10087}{24107} \times 100 = 41.84\% \quad \text{U社} = \frac{16651}{32468} \times 100 = 51.28\%$$

コメント：両社共に緩やかに下降している。継続的に見ていく必要がある。

(4)売上債権対仕入債務比率

$$2003/3:\text{I社} = \frac{24152}{18098} \times 100 = 133.45\% \quad \text{U社} = \frac{27464}{13569} \times 100 = 202.40\%$$

$$2004/3:I社 = \frac{24107}{17105} \times 100 = 140.94\% \quad U社 = \frac{32468}{14391} \times 100 = 225.61\%$$

コメント：I社は150%に近づいており、U社は150%以上である。債務が低く抑えられており良好な方向に向かっている。得意先の信用が上がっているとも言える。

2.安定性分析 (1)自己資本比率

2003/3:

$$I社 = \frac{78420-48037}{78420} \times 100 = 37.74\% \quad U社 = \frac{149391-43058}{149391} \times 100 = 71.18\%$$

2004/3:

$$I社 = \frac{78826-46959}{78826} \times 100 = 40.43\% \quad U社 = \frac{169772-51238}{169772} \times 100 = 69.82\%$$

コメント：I社は50%以下であるが上昇しているので財務的安全性は良い方向に向かっている。U社は下降しているがまだ50%以上であるため財務的安全性は確かだといえる。

(2)負債比率

2003年3月

$$I社 = \frac{48037}{78420-48037} \times 100 = 158.10\% \quad U社 = \frac{43058}{149391-43058} \times 100 = 40.49\%$$

2004年3月

$$I社 = \frac{46959}{78826-46959} \times 100 = 147.36\% \quad U社 = \frac{51238}{169772-51238} \times 100 = 43.23\%$$

コメント：I社は100%をオーバーしているが暫時減少して良い方向に向かっている。U社は100%以下で望ましいが、資本が過剰気味と関係している。

(3)固定比率

2003年3月

$$I社 = \frac{29458}{78420-48037} \times 100 = 96.96\% \quad U社 = \frac{70144}{149391-43058} \times 100 = 65.97\%$$

2004年3月

$$I社 = \frac{29696}{78826-46959} \times 100 = 93.19\% \quad U社 = \frac{84925}{169772-51238} \times 100 = 71.65\%$$

コメント：両社共自己資本だけで固定資産額を十分賄っている。

(4)固定長期適合率

$$2003/3:I社 = \frac{29458}{78420-48037+14413} \times 100 = 65.76\% \quad U社 = \frac{70144}{149391-43058+13344} \times 100 = 58.61\%$$

$$2004/3:I社 = \frac{29696}{78826-46959+20146} \times 100 = 57.09\% \quad U社 = \frac{84925}{169772-51238+14700} \times 100 = 63.74\%$$

コメント：両社共固定資産を十分カバーしている。I社に対してU社の方が余裕があり安定性評価は高い。

(5)金融費用支払能力の分析

$$2003/3:I社 = \frac{3012+333}{820} = 4.08 \quad U社 = \frac{12190+1871}{2103} = 6.69$$

$$2004/3:I社 = \frac{2438+369}{731} = 3.84 \quad U社 = \frac{15006+2920}{1402} = 12.79$$

コメント：I社は大きな変化はないが、U社は2倍に改善されており金融費用支払能力は向上している。 (B)